

第 56 回 全 国 中 学 校 バ ス ケ ッ ト ボ ール 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第56回 全国中学校バスケットボール大会						
●日程	令和8年8月18日 (火) ~ 令和8年8月20日 (木)						
●会場	島根県立浜山体育館(カミアリーナ)						
●講師	前田 紗希 様 若林 謙作 様 久保 あさみ様 唐川 幸 様 本間 さとみ 様 長谷川 裕 様 加藤 暁生 様 東條 輝正 様						
●スケジュール	8月10日(月)事前オンライン研修 8月17日(月)島根県入り 8月18日(火)予選リーグ 8月19日(水)決勝トーナメント1回戦・2回戦 8月20日(木)決勝トーナメント準決勝・決勝						
●担当試合	令和8年8月18日 (火) 15:40 ~						
	対戦カード	名古屋市立御田中学校(愛知)		VS		八王子市第一中学校(東京)	
	主審(CC)	福田 氏(島根県)	副審(U1)	金村 氏(島根県)	(U2)	中川	
	講師／主任	三島 圭一朗 氏					
	講評	・さまざまな視点から状況を捉え、全体がスムーズに進行するよう、先を見通した気配りのある運営をされていた。 ・それぞれのプライマリーエリアで起きた事象について、状況を適切に確認・判断されていた。 ・TF(テクニカルファウル)が起きた際には、タイマー管理や再開場所の確認、説明など、それぞれの役割に応じて互いにフォローしながら対応されていた。					
	自己の感想	・1回戦は、点差が開く展開となりましたが、リードされているチームも最後まで諦めず、粘り強くプレーを続ける試合となりました。今回の試合を通じて、両チームが最大限の力を発揮するために、審判委員としてどのような基準を共有・構築していくべきなのかを考えることができ、大変勉強になった試合でした。 ・個人的な反省としては、クレー内でダブルコールとなる場面がいくつかありました。エリアとアングルについての理解をさらに深め、それぞれの責任エリアを明確にした上で、プレーを見る必要があると感じました。また、セカンダリーの立場でプレーを見ている際には、プライマリーの判定を尊重し、状況を見極めながら、笛を吹くタイミングをもう少し遅らせるなどの工夫も必要だと感じました。 ・今回の反省を次の試合につなげ、エリアとアングル、プライマリー・セカンダリーの役割をより意識しながら、クレーとしてより一貫した判定ができるよう取り組んでいきたいと思います。					
●担当試合	令和8年8月19日 (水) 15:40 ~						
	対戦カード	藤枝順心中学校(静岡)		VS		北九州立折尾中学校(福岡)	
	主審(CC)	前田 氏(北海道)	副審(U1)	佐々木 氏(神奈川)	(U2)	中川	
	講師／主任	豊田 康平 氏					
	講評	・プレゼンテーションや見せ方については、判定の意図が伝わる説得力があり、丁寧な対応ができていた。 ・笛を鳴らすタイミングも適切で、プレーを見極めた上で判定することができていた。 ・一方で、判定できなかったプレーについては、「なぜ判定できなかったのか」を振り返り、自身の視野やポジショニング、予測などの観点から自己分析する必要がある。					

	・出血があった場面では、自身が最も近い位置にいたにもかかわらず、早期に対応することができなかった。状況を素早く把握し、自分が対応すべき場面で主体的に動くことが必要である。 ・デッドとなった際には、次の再開場所、ショットクロック、フロアの状況などをクルー全員で確認し、スムーズにゲームを再開できるようにすることが重要である。
自己の感想	・決勝トーナメント2回戦では、クルーで1試合目のゲームをスカウティングし、担当する試合をどのような展開にしていきたいかを事前に共有・計画しました。その上で、1Qから明確な判定基準を定め、選手たちにクルーとしてのメッセージを伝えることができ、最後までクリーンなゲームを提供することができました。 ・一方、個人の反省としては、クルーで判定した内容を十分に把握し、その基準を維持しながら、プレーの質やゲーム展開の変化に応じて判定を調整していくことを、コート上で十分に発揮することができませんでした。 クルーチーフをはじめ、クルーとしてどのようなメッセージを発信し、それを一貫して判定に反映させていくのか、その重要性を間近で学ぶことができました。実際に一緒にさせていただく中で、ゲームをコントロールするためのクルーとしての連携や、高い判定力を肌で実感することができ、大変貴重な経験となりました。 ・本大会の開催にあたり、JBA U15担当の加藤様、東條様、本大会担当講師の皆様、そして開催地である島根県の皆様には、事前のご準備から研修会、本大会の運営に至るまで、本当にお世話になりました。 このような貴重な大会で審判を担当させていただき、多くの学びと気づきを得ることができました。大会を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。 ・最後になりましたが、今回の派遣に際しまして、ご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきました大阪府審判委員会の皆様にも、改めて感謝申し上げます。 今回の経験を今後の審判活動に生かし、さらに成長できるよう努めてまいります。

令和8年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和8年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会
●日程	令和8年8月17日 (月) ～ 令和8年8月20日 (木)
●会場	島根県立浜山体育館(カミアリーナ)・出雲市総合体育館(出雲だんだんトマトアリーナ) 松江市鹿島総合体育館(以上、本大会)・自宅他(審判研修会)
●講師	加藤 暁生様 東條 輝正様 長谷川 裕様 若林 謙作様 久保 あしみ様 本間 さとみ様 唐川 幸様 前田 紗希様
●スケジュール	令和8年8月10日 (月) 審判研修会(会場:自宅他・オンライン) 19:00 挨拶 JBA審判委員会審判委員長・本大会審判委員長 前田 喜庸様 研修1 U15全国大会における過去のトラブル共有について(講師:加藤 暁生様) 過去5年間における全中・Jr.ウインターカップにおけるトラブル事例を共有して、クルーとして未然に防げることもある。本日の研修を通じて、改めてトラブルの未然防止の意識を高めることにつなげたいと本研修のテーマ設定についても説明があった。 研修2 全中大会を想定したPGC 昨年度のJr.ウインターカップの試合を見て、仮想PGCを行う。 男子ゲーム・女子ゲーム担当で、ブレイクアウトルームに分かれて、仮想PGCを行う。 ※事前に試合映像・チームメンバー・ゲームスタッツが配信され、受講者が各自でスカウティングを行う。 ※講師(S級)がCC役、受講者がU1・U2役となる。 グループ4(講師:長谷川 裕様) 事前配信された試合映像を見て、注意すべき点(チームスカウティング等)をふまえ、クルーとしてどのようにしてゲームに臨むかをテーマに受講者の意見交流と長谷川様のまとめがあった。長谷川様が和やかな雰囲気を作ってくれて、ざっくばらんに意見交流がなされた。 研修3 U15カテゴリーを担当するうえでの留意点(講師:東條 輝正様) マンツーマンペナルティについての審判の対応・インテグリティ・TOコントロールの留意点についての情報共有を行った。 研修4 担当審判員行動規範・確認事項(講師:加藤 暁生様) 事前配信の資料の情報共有を行った。 本研修のまとめ(講師:加藤 暁生様) 開催地島根県より諸連絡・挨拶

●担当試合	令和8年8月18日 (火) ~ 令和8年8月19日 (日)						
	各自担当試合の時間にあわせて集合(3日間とも9:00第1試合開始)→輸送バスで移動						
	令和8年8月18日 (火) 10:20 ~			女子予選リーグ		会場:島根県立浜山体育館	
	対戦カード	王子市立第一中学校(東京都)			VS		金沢学院中学校(石川県)
	主審	CC	石川 淳也	U1	三島 圭一朗氏(島根県)	U2	久樹 拓矢氏(徳島県)
	講師／主任	坂本 幸一様(中国ブロック派遣・山口県)					
講評	・優勝候補の八王子一中と初出場ながら近年強化をはかっている金沢学院中(男子は昨年度優勝・今年度ベスト4)のゲームで注目が集まる中で、クルーで処置ミスなく無事に終えたことが良かった。TOも緊張していた状況も察して、クロック修正も含めてTOへも配慮した対応も良かった。予想に反して序盤から力の差があり、大味なゲームとなったが、リーグ戦ということもあり、最後までクルーで丁寧に判定を積み重ね、プレーヤーの技術で決着をつけることができたと感じる。 ゲーム全体も大きな問題・トラブルなく、ゲームを無事に終了できたと感じる。 ・クルーでCから積極的に笛が入っていたことがとても良かった。 「Cが3POの生命線である」ことを改めて認識したゲームだったと感じた。 ・1試合通して、判定に大きな問題はなかったが、メカニクスについては、ダブルリードになったケースが1つあり、もったいなかった。Lのローテーションのタイミングが原因だと思われる。また、セカンダリ・3番手の判定もあったので、プライマリの理解もしてほしい。						
自己の感想	予想外に序盤から点差が開き、大味なゲームになったが、リーグ戦なので得失点差も関係する要素があったゲームであった。いかに金沢学院中のプレーヤーが最後まで戦えるようなゲームフローをふまえた判定をクルーとして1試合通せたことは良かった。ゲームのクローージングも含めて、クルーの協力で全体的にはチーム・TO・クロック管理も含めて大きなトラブルもなく、ゲームを無事に終えられたと感じている。 ・クルーのお二人もTO(開催地中学生)も初めての全中だったので、CCとしてその状況を把握したうえで、テンポセットの部分では課題が残った。今後もCCを担当することが多いと思うので、クルーの力を発揮させるためのクルーワークを今まで以上に心がけ、実践していきたい。 ・メカニクスについては課題も残った。クルーとしてLのローテーションのタイミングやプライマリの理解を深めて、「プライマリからのシングルコール」を意識して、今後の試合で実践していきたい。						
	令和8年8月19日 (水) 13:00 ~ 男子決勝トーナメント1回戦 会場:出雲市総合体育館						
	対戦カード	八戸市立白銀中学校(青森県)			VS		茅ヶ崎市立布水中学校(石川県)
	主審	CC	石川 淳也	U1	平 武幸氏(愛知県)	U2	栗田 吏章氏(静岡県)
	講師／主任	若林 謙作様(JBA本部派遣・栃木県)					
	講評	・布水中が優勢な中、白銀中が猛追を見せ、残り3.8秒で白銀中が逆転シュートを決め、全中上位の布水中が敗れる波乱のゲームで、役員・観客が盛り上がるゲームをクルーでつくりあげたことがとても良かった。Very Good Gameであった。 クルーとして判定を積み重ね、プレーヤーの技術で決着がついたゲームであった。 ・ゲーム序盤から本当に必要な笛だけが入り、テンポセットも良かった。ほぼプライマリレフェリーからコールされていたのも良かった。テンポセットとして両チームにメッセージが伝わったことがスムーズなゲーム運営につながったと感じる。クルーワークも良かった。 ・ゲームフローを感じて、コールorマージナルorノーコールの判断がゲーム・プレーヤーにフィットして、全中を長い間経験されたベテランらしい笛が入っていた。メカニクスも崩れもなく、プレーコーリングも含めて大きな問題はなかったと感じる。 ・あえて言えば、視野の分担が課題かと感じた。Tがロートレールで確認できない時にLのフラッシュ・ピークがほしい。このゲームでも3or2・FULの確認が薄く、ファールでコールしてほしいケースが1つあった。Lもリバウンドが気になるが、Tの状況も把握してほしい。					

自己の感想	・クルーとして両チームの力関係を見て、布水中が優勢だと感じ、白銀中が最後まで戦えるようなゲームフローをふまえた判定を共有していた。最大18点差ついていたが、ゲームの流れを掴んだ白銀中が追い上げ、試合終了間際に逆転勝利を掴んだことで、改めてゲームは最後までわからないことやゲームフローをふまえた判定が大切なことを痛感した。 ・前日のゲームの反省であるメカニクスやポジションアジャストに重点をおいてPGCを行った。クルーのお二人に情報をいただきながらチームのスカウティングを行い、情報を共有して試合に臨むことができた。 ・昨日の反省を生かし、メカニクスについてはある程度修正できたと感じている。目まぐるしくゲーム展開が変わり、終盤はどちらが勝利するかわからないゲームであったが、大きなトラブルなくゲームを終了できたことは良かったと感じる。 ・CCとして、担当ゲームではゲームフローやクルーの状況を見て対応できたことは良かったが、いつ・どのような状況やどのカテゴリーのゲームでも対応できるような懐の深さを持つことが課題だと感じた。 ・研修会、本大会を通じて、改めてベーシックの理解と徹底が必要だと感じました。日頃から頭では理解してもオンザコートで適切に適用できるように、今後も「TRY & ERRORで身につけること」を意識して、今後の審判活動にも積極的に取り組み、研鑽を積んでいきたいと思います。 ・本大会で自分の力量やCCとしてクルーの力量を発揮できることはある程度できたことは大きな収穫でした。ただ、「テンポセツ」や「どのカテゴリーのゲームでもCCMの発揮」については課題も残りました。これは私の課題でもある「ゲームコントロール」に直結しています。今後の審判活動の中で課題克服に取り組んでいきます。 ・本大会開催にあたり、JBAU15担当加藤様・東條様、本大会担当講師のみなさま、開催地島根県のみなさまには、ご準備から研修会・本大会の運営と本当にお世話になり、ありがとうございました。また、一昨年・昨年に引き続いての全中派遣で全国のみなさまとお会いして交流できたことや本大会の審判を担当することができ、新たな発見・学びの場となりました。改めて感謝申し上げます。 ・派遣に関してご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきましたことを、細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会のみなさまに改めて感謝申し上げます。 ・今回は、来年度の「大阪全中」開催に向けて、視察も兼ねて参加させていただきました。本大会の運営はもちろんのこと、事前の審判講習会を含めて、JBAU15担当加藤様・東條様、開催地島根県のみなさまと情報交流を行い、今後の取り組みの流れをイメージすることができました。 ・大阪全中開催に向けて、U15部会審判委員会に情報共有して、役割分担をしながらU15部会審判委員会が主体となって準備を進めてまいります。協会役員のみなさま、協会審判委員会のみなさまのご協力をお願いすることもございますが、大阪全中に向けてご尽力を賜りますようお願い申し上げます。 ・最後になりますが、この貴重な経験を今後の審判活動に生かし、真摯に審判活動に取り組んでいきます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。
--------------	--

令和8年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和8年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会					
●日程	令和8年8月18日 (木) ～ 令和8年8月20日 (日)					
●会場	島根県立浜山体育館・出雲市総合体育館 自宅他(審判研修会)					
●講師	加藤 暁生様 東條 輝正様 前田 紗希様 若林 謙作様 久保 あさみ様 本間 さとみ様 長谷川 裕様					
●スケジュール	令和8年8月10日 (月) 審判研修会(会場:自宅他・オンライン) 8月17日(月) 島根県入り 8月18日(火) 予選リーグ 8月19日(水) 決勝トーナメント1回戦・2回戦 8月20日(木) 決勝トーナメント準決勝・決勝					
●担当試合	令和8年8月18日 (火) 9:00 ～ 女子予選リーグ 会場:島根県立浜山体育館					
	対戦カード	京都精華学園中学校(京都府)		VS	昭和学院中学校(千葉県)	
	主審	OC	古川 俊和氏(福島)	U1	濱口 玄也氏(新潟)	U2 平野 智也
	講師/主任	豊田 康平様				
	講評	・オープニングゲームで、開催地役員や観客も注目する中、クルーで処置ミスなく終えたことが良かった。TOも緊張していた中、ショットクロックの修正も含めてTOへも配慮し、スムーズなゲーム運営ができており、良かった。 ・それぞれのプライマリでコールできていたこと、またプライマリが判定しにくいケースでセカンドリでケイデンスで笛が入っていたこと。 ・クルーワークも良く、それが判定にも結びついており、ゲーム全体もトラブルなく、ゲームを無事に終了できたと感じる。				
	自己の感想	試合としては、点差が開く試合となりましたが、その試合の中で明らかなものには笛を入れ続けることを意識し1試合通してレフリーを行った。その中で、プレゲームカンファレンスで、リードの3or2の判定を助けていくこと、Cのポジションアジャストの部分と共有した中で個人の課題でもあるCのドライブに対する判定の仕方について、意識を行ったがまだまだ課題が残るゲームとなった。ポスト・ゲーム・カンファレンスでもその点をなどを確認させていただき、今後につなげたいと感じた。				

	令和8年8月18日 (火) 13:00 ~ 女子予選リーグ 会場: 島根県立浜山体育館					
	対戦カード	金沢学院附属中学校(石川県)		VS	名古屋市立御田中学校(愛知)	
	主審	OC	森原 隆氏(広島)	U1	平野 智也	U2 田中 大雅氏(島根)
	講師/主任	武藤 陽子様				
	講評	試合自体は最後まで分からない接戦となり、両チームとも手を使ったファウルが多く見られるゲームであった。その中でも、ファウルを適切に取り続けたことで、選手にプレーの基準を示しながらゲームをコントロールすることができていた。また、ベンチとのコミュニケーションを取り、ゲーム運営ができていた点は良かった。ファウルを取り続けるだけでなく、試合の流れや選手の対応を見ながら、より一貫した基準で判定できるよう意識してほしい。特に接戦では、判定の一貫性とクルーワークをさらに高め、より安定したゲームコントロールにつなげてもらいたい。				
	自己の感想	試合は終始接戦で、両チームとも手を使ったファウルが多く、難しいゲームだったと感じました。その中でも、明らかなファウルを逃さず、試合を通してしっかりと吹き続けていた点は良かったと思います。ただ、ベンチとのコミュニケーションを取る中でヘッドコーチのインテンシティが上がり、異論表現などが多く見られ、そこへの処置自体がもう少し考える必要があったように思う。接戦だったからこそ、判定の基準を最後までぶらさず、選手やベンチに安心感を与えることの大切さを改めて感じました。今後は、プレーを予測しながら、より良い位置取りと判定につなげていけると、さらに安定したレフェリングになると思います。				
	令和8年8月19日 (水) 9:00 ~ 男子決勝トーナメント1回戦 会場: 出雲市総合体育館					
	対戦カード	福智町立方城中学校(福岡)		VS	札幌市立東月寒中学校(北海道)	
	主審	OC	若林 謙作氏(栃木)	U1	南 宣匡氏(京都)	U2 平野 智也
	講師/主任	福島 洋平様				
	講評	両チームのゲーム展開が大きく変化する試合となった。 そのような状況の中でも、クルーでゲームの状況を共有し、落ち着いて判定を続けることができていた。特にディフェンスの手によるファウルについては、適切にファウルの判定ができており、ゲームコントロールにつながっていた。クルーワークも良く、互いにカバーしながら判定できていた。また、ローテーションもスムーズで、コート全体をバランスよくカバーできていた点も良かった。				
	自己の感想	試合の序盤に黒チームのエースがケガをしてしまい、ゲームの展開が大きく変わった。その中で、イリーガルな手の使い方の判定を積み重ね、ゲームコントロールとして行った。オフェンスの突き出しの手の使い方の部分が1ゲーム通して吹き続けたことにより、ゲーム自体がクリーンになったように感じた。 プレゲーム・カンファレンスで共通認識として、3or2の判定でTが忙しい時にLが助け、クルーで助けること、Cサイドのコフィンコーナーでダブルチームが起きたときにダブルTができることも想定して、チェックイン、チェックアウトのアイコンタクトなどをしていくことを話をし、ゲームの中で自分自身チャレンジしました。まだまだ判定が遅れてしまうことがあるがトライしていきたい。 この全国中学校大会で学んだ経験を今後にかいて行きたい。				